

一般社団法人日本建築まちづくり支援機構（JCAABE）

2024年第7期総会議事録

事業期間 自 令和5年8月1日 至 令和6年7月31日

開催日時 9月22日 18時～20時

開催場所 建築家会館3階大会議室及びZoom

配付資料 第7期総会議案、事業報告書（決算及び監査報告書）、資料1～5

総会の成立確認

大槻一敬事務局長から会場参加5名、オンライン参加6名、委任状82名で合計93名の出席があり、正会員150名の過半数の出席を確認したので会は成立しているとの報告があった。

会場参加：連健夫、松村哲志、向田良文、成岡茂、片山耕治、大槻一敬（事務局）

オンライン参加 山田暁（中国支部長）、松本純一郎（東北支部長）

古里実、久保田恵子、飯沼竹一、北村稔和（組織本部長）堀越まい（事務局）

連健夫代表挨拶

当会は7年前に良質な建築・美しいまちづくりを目的に設立されました。資格やセミナーを扱い、一級建築士+専門資格の方を対象にセミナーと考査を通して、認定まちづくり適正建築士に認定され、当会の正会員と登録されています。またAD調停人の推薦やまちづくりファシリテーター養成講座も行っており、これらの地道な活動が、2024年度の日本建築学会教育賞、2023年度日本工学教育賞受賞につながっています。

議長の選出

司会の大槻事務局長から、総会の議長は定款第13条の規定により代表理事が当たるとしているため、連代表にお願いするとの発言があった。

書記及び議事録署名人の選任

議長は、書記には正会員の成岡茂、議事録署名人には向田良文と片山耕治を指名した。

【議事】

議案1 事業報告

1. 会員の状況

現在の会員数は181名である。会員サービスとしてリレートークを4回実施した。この録画をHPに掲載し視聴出来るようにしている。会員

数は前年度154名だったので会員は増加している。

2. 広報活動

HPの充実を図るとともに、関係団体の機関誌に当会の紹介を掲載している。掲載料は1誌、約5万円をお願いしている。機関誌としては、

JIA マガジン、東京建築士会誌、大阪建築士会の建築人である。

3. まちづくりファシリテーター養成講座事業

2019年から全国で8校の専門学校で実施している。また、立命館大学阿部研究室ではこの講座が取得できる仕組みが設置された。オンラインで受講できるようにし6名が受講した。

この取組みで2024年度日本建築学会、教育賞、2023年度日本工学教育協会工学教育賞受賞し、授賞式には特別顧問や理事等が出席した。

建築まちづくり活動においては、JIA 建築家常滑大会でまち歩きワークショップを実施した。今年の別府大会でも同様の企画を予定している。

4. 建築まちづくりコンクール「日常と非常時をつなぐデザイン」

事前復興のまちづくりという観点で、街のタカラ探しとアラ探しを行う。場づくり、建築づくりを提案いただいている。

一般部門は既存の建築作品、まちづくり活動対象のコンクールであり、学生部門ではアイデアコンペとしている。現在55作品の応募をいただいている。公開審査会は、10月27日に総合資格新宿校でハイブリッド開催で行われる。

5. 建築系まちづくりファシリテーター養成講座の国際化

昨年12月にフィリピンバギオ訪問（連代表とプレゲンス教授）現地大学、建築家、イコモス代表と面談し、文化庁に申請したが落選となった。トヨタ財団、国際助成プログラムに申請中で9月末に結果が出る予定。

議案2 決算報告

北村組織本部長から第7期決算報告／まとめ及び事業報告書について報告があ

った。続いて向田良文監事から監査報告があった。

ここで連代表から、JCAABEの庶務・研究員に堀越まいさんを任命した旨の報告があった。堀越氏は、早稲田大学人間科学部博士課程を卒業、兵庫県上郡町で地域おこし協力隊に参加している。

九州支部長の鯨坂徹氏はDCOMOMO JAPANの代表をされている。この活動は当会の趣旨に合致する活動なので皆さんにも是非関わって欲しいとの投げかけがあった。

トヨタ財団の申請では、当会とフィリピンのセントトーマス大学、イコモスと連携することになる。

この後、オンライン参加の地方支部長からの現状報告があった。

山田暁中国支部長 倉敷商工会議所ではトイレプロジェクトを立ち上げ観光客への環境整備を行っている。

松本潤一郎東北支部長 仙台駅東地区まちづくり協議会では連代表を迎え、「CABEの理念と実践」について講演をいただく予定。11月5日から6日間JIA仙台支部大会に仙台市と台南市の交流企画を予定しているが、こちらにも連代表を迎え、「市民参加のまちづくり、住民主体の復興事業」についてご講演をお願いしている。

議案3 次期事業計画

- (1) 認定まちづくり適正建築士セミナーの受講者を勧誘し仲間づくりを行う。
- (2) まちづくりファシリテーター養成講座については、設置校を増やすとともに、オンライン講座による取得しやすい工夫を行う。
- (3) 海外でのまちづくりファシリテーター事業展開するとともにJIA建築家大会（別府）ではまちづくり

ワークショップを行う。

続いて、理事会の報告事項として下記の役員体制について報告があった。

報告、確認事項、年度の体制

役員は2年毎に改選を行う。

【理事】 代表理事 連健夫、専務理事 大谷昭二、最上義、松本昭、松村哲志

【特別顧問】 神田順、野澤康、三井所清典、市古太郎

【幹事】 日比野大（弁護士）

【全国支部長】（北海道支部）菅沼秀樹、東北支部 松本純一郎（関東甲信越支部）連健夫（東海支部）鳥居久保（近畿支部）荒木公樹（中国支部）山田暁（四国支部）野村正人（九州支部）鱒坂徹

【設計コンペ・プロポーザル相談室】 山本想太郎

【組織本部長】 北村稔和

【事務局長】 大槻一敬
事務局 飯名京美、堀越まい（新任、庶務・研究員）

議長は以上の議案について会場から意見を求めた。

成岡茂（正会員） 連代表は、当会の設立趣旨として、良質な建築と美しいまち

づくりを目指して、建築まちづくり適正建築士という資格制度をつくり活動を行うとして取組んできた。私も含め現在180人を超える会員を擁している。しかし、設立から7年を経過しているが、この人たちの活動の場がない。市町村などの建築計画のアドバイザーとしての役割はあるはず。その業務を市町村から受託契約し当会の資金を稼ぐ取組みはできないか。可能性は十分あると思う。また、今回の議案では事業計画が3行しか記載されていない。この取組みも含め具体的な行動提起も計画の中に組み込んで欲しい。更に総会で事業予算のない議案は初めて見た。予算計画もしっかりと組み込むべきだ。それと正会員以外に専門会員、準会員、賛助会員もいるが会費はどうなっているか。

連代表 確かにそういうことができれば有り難い。今後取組んでいきたい。事業計画にも入れたい。また、事業予算も組み込む。現専門会員の1人は弁護士で正会員と同額の8,000円、準会員は学生でその半額、賛助会員は60,000円となっている。

議長は、他に意見を求めたが、意見はなかった。

これを踏まえて議長は、会場に賛否の投げかけを行い、全会一致で議案は承認された。

以上

記 録

成岡 茂



以上の議事録は、事実と相違ありません。

議事録署名人

連 健夫



向田 良文



片山 耕治

